転生者、現る.....

キイロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
転生者、現る．．．．．

【Ｎコード】
Ｎ４４７９Ｍ

【作者名】
キイロ

【あらすじ】
馬鹿な神のせいで死んでしまった西条神名は、気がつくと恋姫の世界に来ていた！？？？

＜主人公設定＞（前書き）

ハジメマシテ、キイロデス。
文章ガヘタデスガ、ヨロシク。

＜主人公設定＞

名前（さいじょう）　西条神（かみな）名
年齢　１５歳
身長　１７６ｃｍ
体重　５６ｋｇ
能力　力　ＳＳＳ（とにかく強い）
　　知力　Ａ（時々すごいことをひらめく、、、かも）
　　脚力　Ｓ（速い、、、、）
　　気　Ａ（無理）
性格　：いたって冷静
　　：優しいがキレると、、、まじ怖い

作「顔などの形などは読者の皆様にお任せしま～～～す！！」
神「なー」
作「ん？」
神「あまりにもチートしすぎじゃないか？」
作「でーじょぶだ」
神「少し直した方がいいんじゃ、、、」
作「でーじょぶだ！」
神「いや、ほんと直した方が、、「でーじょぶだ！！！！」、、、、」

ブチッ、、、、

神「おい、、、」
作「だから、でーじょぶｄ、、、ひっ！！！」

ピ～～～～～～（ただいま、ブチノメサレテマス）

神「えー、こんな作者ですが、よろしくお願いします」
作「・・・・・・・・・・（チーーン）」
神「おーい、そろそろ起きろ～～」
作「う、、おはよ～、朝ごはんまだ～？」

ドカッ！　バキ！　ボカー－－－ン、、、、、

神「まず、よろしく～」

一方、作者、、、、
作「ここはドコ？私は誰？」

＜主人公設定＞（後書き）

ヤット、オワッタ、、、、、

プロローグ（前書き）

ガンバル！

プロローグ

神「ん、、、んん？　ここはどこだ？？？」

周りは何かに飲み込まれそうなくらい黒いとこだった

神「、、、どこ？」

？「あ、やっと起きた～」

声がして振り向くと、そこには女の子がいた、、、

女の子「もう～、起きないからほんとに死んだのかと思ったよう～。」

神「君は誰？」

女の子「あ、そういえば名前言ってなかったね。私は、、、、なんだっけ？」

ズコッ！！

おいおい、自分の名前わかんないのかよ、、、、

神「、、、じゃ、名前は適当に言うから、、、」

そして、こいつ、もとい女の子はリンと言う名前になった

どうしてかは、聞くな、、、

神「んで、ここはドコなんだ？」

リン「ここは、死後の世界だよ～♪」

ふ～ん、そうか～　ここは死後の世界か～　、、、、、って、おい！！

神「な、、なんで、俺はここにいるんですか？？」

リン「あ、、あはは、、、そ、それは、、、」

神「それは？」

リン「ヤッチャッタゼ！！」

は？　やっちゃったぜ？　なにを？　、、、、もしかして！！！

神「つかぬ事お聞きしますが、俺が死んだのってアンタのせい？」

リン「あはははははは～～～、、、、、」

リンが走り去っていく、、、、

神「逃げた！！！！！！」

俺もそれを追う

リンは足が遅くすぐに追いつく、、、、そして

神「おい！！　てめ～、ここの世界じゃ～神みたいな存在なんだろ～（推測）」

リン「ひ！！！！！」

リンが怯えはじめた

神「まず、俺を元の世界に返してくれ、、、」

リン「それは無理（ニコッ）」

は？　なんで、そこで笑顔？？？　ムショウに腹が立つ！！！！

神「な、なんで？？？」

なるべく、笑顔で言ってみる

リン「やり方しらないから～～～（ニコッ）」

ブチッ、、、、、

ガシッ、俺はあいつの頭をつかんだ

神「どこでもいいから転生させろ、、、、」

リン「へ？」

神「どこでもいいから転生させろっていってんだよーーー！！！！」

リン「きゃーーー！！！！」

多分３０分後、、、

リン「お父さんに聞いてきたわ、、、、」

お父さんなんていたんだ、、、、

神「んで、どこになったんだ？」

リン「転生はさせるけど、行き先は適当だって」

ええ～～、お父さんヒドッ！！！

神「ま、いいか。転生できるだけマシか、、、はぁ～～～、、、、」

リン「ま～、気を落とすなって」

神「誰のせいだと思ってんだーー！！！！！！！」

リン「きゃーーーー！！！！！！！」

リンの悲鳴、再び、、、

神「それじゃ～、行くとするか」

リン「は、、、、、はい、いってらっしゃいませ、、、、、」

リンがなぜこうなったかって??　、、、聞くな

リン「神名にチートを付けておきました」

神「へー、どんな?」

リン「着いてから、お試しになってください、、、、それと私とは念話で会話することができます」

神「・・・・・・・・・・・・・・」

なんとなくスルー

神「この門を通ればいいんだな」

リン「はい、、、」

リンのキャラが変わってしまった、、、やりすぎたか、、、

神「ほいじゃ、新しい世界に、、、、いっきまーーーーす！！！！」

こうして、神名の新しい人生が始まった！！

プロローグ（後書き）

全体的にキャラが～～～～、、、
ま、いいか！！！
読んでくれた人感想ヨロシク～～～！！

神名、英雄と出会う（前書き）

時間がホシイデスーーーー

神名、英雄と出会う

神「、、、、ん？」

起き上がると、そこは何もない荒野だった

神「本当に転生したんだな～～」

そんなことを言っていると、いきなり声をかけられた

？1「おい、ニィーちゃん、身ぐるみ置いてけや」

いきなり、ヒゲを生やしたおっさんが剣を突きつけて言ってきた

は？　これ世間的に言う賊ですか？　なんか黄色い布を巻いてるし、、、

？2「い、、いいから、言うこと聞くんだな！！！」

今度は、太った奴が言ってきた

神「（なんか、うざいな、、、、）」

そんな風にイラついてきたとこに、

？3「早く身ぐるみ置いてけって言ってんだよ！！！」

と、チビっこい奴が言ってきた、、、その瞬間、、、、

ブチッ、、、、、、

ヒゲ「早くしろって言ってんだろ！」

ヒゲが攻撃してくる、、、、

だが、神名はそれを避け、ヒゲの腹に強烈な拳を叩き込んだ

それをモロに喰らったヒゲは数m吹き飛んで動かなくなった、、、

神「さぁ、次は誰だ、、、」

今の神名の目は尋常ではないほど、鋭く相手を睨んでいた、、、、

神「こないなら、こっちから行くぞ、、、」

その瞬間、神名はその場から消え、デブの後ろに現れた

2人「「!???」」

いきなり後ろに現れたことに同様している隙に、神名は次の攻撃に移り変わっていた、、、

神「は!!」

デブに思いっきり蹴りをいれた

デブの体は吹き飛びそれにチビが巻きぞいになって吹っ飛んだ

2人もまた動かなくなった、、、

神「また、詰まらんものを、、、、」

そんなことを言っていると、後ろのほうから誰かが走ってきた

それは、３人の女の子だった、、、

???ｓｉｄｅ

私達は流星が落ちたとこに向かっていた

そこでは、１人の男の人が３人の黄巾党と戦っていた

?１「あの人が天の御遣い様なのかな〜〜?」

?２「わかりません、危ない輩かもしれません。桃香様は待っていてください」

と言うと、愛紗ちゃんは男の人の方に走って行ってしまった

?１「む〜、愛紗ちゃん酷いよ。自分が早く会ってみたいからって。」

?３「にゃはは〜、だったらおねぇちゃんも早く行ってみるといいのだ」

?１「ん〜、そうだね！鈴々ちゃん行こう！！」

そう言って、私達は愛紗ちゃんの後を追った、、、、

神名、洛陽に着く（前書き）

エー、キョウハゲストヲオヨビシマシタ～～～～！！

グレイサンデス！！

アトガキデトウジョウ～～～

神名、洛陽に着く

神「ん？」

そこには、３人の女の子がいた、、、

？２「これは、貴方がやったのですか？、、、」

髪を後ろでまとめた、背の高い少女が倒れている賊を見ながら言った

神「そうだけど、、、」

？１「ねー、愛紗ちゃん、やっぱりこの人、、、」

？３「そうかもしれないのだ～～」

３人はなにやら話し合ってるみたいだ、そしてピンク色の髪をした少女が

？１「貴方って、もしかして天の御遣い様ですか？」

神「はい？」

？２「いや、ですから貴方は天の御遣いなのですかと、聞いているのですが、、、」

なに？　天の御遣い様ってなーに？　それにこの子たちの格好ってどう見たって、、、、

コスプレじゃん、、、、、、

かわいい子達だけど、あまりかかわらない方がよさそうな気がしてきた、、、、

選択　1、関わってみる
　　2、威嚇する
　　3、逃げる

俺はすぐさま逃げる態勢ををとった、、そして、、、、

神「アディオス！！！！」

神名は逃げた、、、それに驚いていた3人もすぐに追いかけて来るが、神名はチートで足が異常なまでに速くなっていた

すぐ追って来た3人だったが、常識を超えている神名の足には追いつけなかった、、、

3人を振り切った神名は、どこかに街に着いていた、、、

神名、洛陽に着く（後書き）

キ「ドウモ、オヒサシブリデスネ、、、」

グ「どうも初めまして、グレイです」

キ「自己紹介しましたが、モウジカンガナイデス、、、」

グ「え、、、、」

キ「ひとまず、、、」

二人「「これからも、よろしく！！！」

神名、つかの間の休息？

神名は3人を振りきった後、どこかの街に着いていた、、、、

神「ここは、どこだ？」

リン「（なんか迷子になってるし、、、、）」

なんか不可解な声が聞こえたがスルーしておこう、、、、

神「やっぱり、宿に泊まるにも金が必要だから、、、、仕事探すか、、、、」

それから、神名は仕事をやり、宿に着いた

神「仕事って言っても、結構賊の討伐が多かったな、、、」

皿洗いなど、店の手伝いよりも、賊の討伐が多かったのはなぜなのだろう、、

そういえば、店の手伝いをしてるときに少しだけ聞いた単語が気に

なってしょうがない、、、

神「董卓、、、」

この単語を聞いたり、街の風景を見るなりして、この世界がどうゆうとこなのかうすうす分かってきた

多分、俺の予想が当たっていれば、ここは三国志の世界

聞いた話じゃ、董卓って子は女になってるし、本当は男のはず、、、

この世界はおかしい、、、

なぜ、男の奴が女になっている？　疑問は深まるばかりだ、、、

神「とりあえず、今日は寝て、明日調べてみよう、、、」

Ｚｚｚ．．．．．．．．

次の朝、起きるのが異常に早くなってしまった、、、

神「時間的に言うなら、４時くらいかな、、、、」

俺は誰に言ってるんだ？？？

リン「（もしかして私にですか！？）」

神「（引っ込め！！！）」

・・・・・・・・・・・・・・・・

今俺は、街をぶらついていた

神「何だか、視線が痛い、、、」

自分でも察していたが、この服装を見れば怪しがらない人はいない

そりゃ～、こんな真っ黒い服着ていればな～～、、、はぁ～～、、、、

そんなことを、考えて歩いていると何やら人だかりができていた

近くの商人に聞いてみると

商人「何だか、黄巾党の奴が女の子を人質にしているらしいんっすよ」

神「ふーん、この時代でもこんなことあるのか、まず、行ってみるか」

商人と別れ、そこの野次馬をかき分けながら中央に向かっていった

そこでは、、、

黄「おい！！　てめーら！　少しでも動いたらこいつの命はねぇーぞ！！！！！」

などと言ってる、なんだかありきたりだな、、、、、

そこには、薄水色の髪をした少女とメガネをかけた少女がいた

黄巾党の奴は少女の首に剣を立てていた、、、

?メガネ「どうしら、月を解放してくれるのよ!」

黄「食料と馬を持って来い、そうすれば解放してやる」

?メガネ「わ、、わかったわ、すぐに用意させる、だから月には手を出さないで!」

そう言うと、近くの兵に用意させるよう言った

その時、黄巾党の奴が小さく何かを呟いてた、、、

黄「へへっ、コイツは奴隷売買に売れば、高く売れるぞ、、、、」

他の住民などに聞こえていなくても、俺には聞こえていた

俺は許せなかった、こんな小さな子を商売の道具に使うことに

そして俺は、黄巾党の前に出に行った

神「おい、、、」

黄「なんだてめぇは！　少しでも動けばコイツを殺すと言ってんだろうが！！！」

俺はそいつの言葉を聞かず、目にも留まらぬ速さでヤツの前に出た

そして、やつの腕をありえない力でつかんだ、、、

黄「がああぁあぁあぁ！！！」

ヤツの腕が一気に潰れ、血が飛び出す

そのまんま、少女を黄巾党から引き離し、ヤツの頭をつかんで言った

神「このまんま俺に頭を潰されて死ぬのと、牢屋に入って人生反省すんのと、、、どっちがいい？？」

ヤツは最後まで言い続けた、、、

黄「化け物だ、、、、」

そう言っているばかりだから、俺は無理くりそいつを兵に受け渡し、この事件に終止符を打った、、、

そして、また街をぶらつこうとした時、捕まっていた少女とメガネの少女が近づいてきたのであった、、、、、、、、

神名、つかの間の休息？（後書き）

キ「第一回、主人公のキャラはこのままでいいのか会議～～～！！」

グ「パフパフ～～～、イエーイ！」

キ「では、グレイさん　早速意見をいただきましょうか」

グ「キャラ的にはいいんではないでしょうか？　ただ、それほど冷静ではないんじゃないか？？？」

キ「それは、時と場合によるでしょ」

グ「そうですね」

キ「それにしても、冷静なのにすぐ怒りやすい性格になってしまったですね～」

グ「それだけ、短気なんじゃないんですか？？」

キ「それも、そうですね！！」

２人「「あはははははっ！！！！」」

神「おい、、、、、」

2人「「ひ！！！！」」

ピーーーーーーー、、、、、、、、

神名、悩む（前書き）

ツカレターー！！
モウ、シゴトイヤ～～～、、、

神名、悩む

その場から離れようとした神名に2人の少女が近づいてきた

？「あ、、、あの、助けてくれて、ありがとうございます、、、」

神「いや、ただ通りかかっただけだから」

？メガネ「僕からも言わせて、本当にありがとう、、、、」

神「いえいえ、僕の名前は西条神名と言います、あなた方は？」

？「私は性は董、名は卓と言います」

？メガネ「僕は性は賈、名は駆って言うわ、それにしても貴方の名前は不思議な名前だね」

神「そ、、、そうか？、、、」

内心ビックリした・・・まさかこの子があの董卓だったなんて・・・

神名はヒヤヒヤしていた、また何か嫌な予感しかしないからだ、、、

あの3人組みたいに、

（董「（貴方が天の御遣い様ですか？）」）

などと聞かれたら、また一目散に逃げようと考えていた、、、でも、

、

董「助けてくれたお礼をしたいんですけども、私のお城に来てくれませんか？」

予想は違っていた、、、

神「いいよ、お礼なんて～、ただ助けたいと思って助けただけだから」

董「それでも！来てはくれませんか？」

考え中・・・・・・

神「・・・わかりました、そのお礼慎んでお受けいたします」

董「よかった、詠ちゃん、神名さん行きましょう・・・」

そうして俺は、董卓の城に向かったのである・・・・

神「・・・・・・・」

少しビックリして、唖然としていた

神「この城、デカ・・・・・」

その城は予想していた以上に大きかった

そして、城に入った瞬間誰かに見られている感じがあったが、それほど殺気を放ってないから、スルーしておくことにした・・・・・

???side

?「なんや、あいつ、あまり見かけない顔やな、、、、、一応警戒しとくことに越したことはあらへんやろ、、、、」

・・・・・・・・・

神名side

俺たちは客室で話をしていた・・・

その途中に、言われたのが董卓の下で働かないかと言われたのである

俺はそれに悩んだ、このままここで将軍として働くか、それとも、違うとこで働くか、、、、

悩んだが答えが出ないから、ひとまず・・・・

神「1日考えさせてくれないか？・・・・」

俺はそう言った、董卓は

董「そうですね、いきなり言われても困りますよね、わかりました・・・・・だったら、今日はここに泊まって行ってください、部屋を用意させます」

そういうと、董卓と賈駆は客室から出て行った・・・・・

俺は自分の部屋についてから、中庭に来ていた・・・・・・

なぜなら、自分の能力について把握するためである

自分にはどんな能力があるのか全然わからない、だから、ここで試

すことにした・・・

夕方、気づいたことが2つある

1つは、何でも想像した物を具現化できる能力があること

もう1つは、その能力を無眼に使えることだ

ちょっとチートしすぎだろ

と内心で言っていると・・・・

リン「（テヘッ☆）」

なんか、ウザイ声が聞こえた・・・・・・

そして、夕食の時間、飯を食っていると1人こっちをジ～っと見ている娘がいた

そっちに顔を向けてみると、その娘は顔を赤くしながらモジモジし始めた・・・・・

神「（なんなんだ？）」

そんな風にしながらも、1日が終わったのである・・・・・・

神名、悩む（後書き）

キ「暇だ～、なにかしろよ、神名～～～」

神「本でも読んでろ！！」

キ「嫌だ！、詰まんない！どうにかしてよ～～～～！！！」

神「んじゃ、寝てろ！！」

ボフッ！！

キ「ぐほっ！！！」

ばたっ・・・・・・

神「まったく・・・・・・」

神名、決心する（前書き）

ヒマデス～～

人生ヒマデス～～～！！！

神名、決心する

翌朝、早く起きた俺はまた中庭に来ていた

もし戦う時にメインになる武器がなかったら大変だろう～～～？？？

そして、ためしに普通の日本刀を想像してみた

想像してみたはいいが、自分にはあまりしっくりこなく、刀はやめることにした

神「もしかして、アニメのキャラの装備を想像したら出てくるのかな・・・？」

ためしにあっちの世界で好きだったアニメ（リ○ーン）の装備を考えた・・・・

神「やっぱ、ツ○の装備だよな～～・・・・・」

出ちゃった・・・・毛糸の手袋出ちゃったよ・・・それにリングと
ボックスと例のアメ玉まで・・・・・・

神「手袋以外想像してないのになー・・・・なんでだ？」

ま、いいか

早速、リングに炎を出してみる

「ボワッ！！！」

意外と簡単にできた・・・・・・ええええええ・・・・・・・・

こんな簡単でいいのか？　おい！

リン「（いいんだよ！）」

（グリーンだよ！！！）って言ってほしいのか？　おい！

・・・・・・・・・・・・・・・・

ひとまず、次はグローブだな

毛糸の手袋をはめて、例のアメを食べる

すると、体のそこから力が湧いてくる・・・・・・・

手を見ると毛糸の手袋がXグローブver．V．R．になっていた・・・・・・・・

耳にはヘッドホン、目にはなんか着いていた

神「なんか、あっちの世界での夢・・・一つ叶えた感じだな～～～」

試しに飛んでみる・・・・

神「いやっほーーーーー！！！！」

軽々と数十mを飛んだ

そして、そこでツナのあの技を使ってみる

神「オペレーション　イクス・・・・・」

（了解しました、ボス）

神「おお！これもちゃんと聞こえるようになってる！でも炎の出力って難しいな・・・・」

（ゲージ　シンメトリー、発射スタンバイ）

神「Ｘ　ＢＵＲＮＥＲ　ＡＩＲ！！」

ボッ！！！

手から、高密度に圧縮された死ぬ気の炎が出された

ボカーーーーン・・・・・・・・

遠くにあった山が一つ・・・消えた・・・・・・

神「やっちまった・・・・・・・・」

・・・・・・・・・・・・・・

神「まず、グローブはこんなもんでいいだろ・・・」

丁度、太陽が出てきたとこだし、部屋に戻るか・・・・・・

動こうとした時、右足が止まった・・・

神名は悩んでいた、ここで働くか、働かないかを・・・

自分は何のために、戦おうとしているのだろう・・・お金のため？
権力のため？？

違う！俺は・・・・

俺は急ぎ足で董卓さんの部屋に向かい、扉の前に立ち戸を叩いた・・・

コンコン・・・・・

董「はい・・・・どうぞ・・・」

神「朝早くすみません、董卓様に昨日のことでお話しがありまして」

神「俺は・・・・ここで働くことにします」

・・・・・・

董「どうしてそう決心したのですか？」

神「俺は・・・俺はみんなの笑顔を守りたいから、そう決心しました・・・」

・・・・・・

董side

董「（似ています・・・・貴方はお父様に）」

昔、私はお父様に聞いたことがありました・・・・

董「ねぇ、お父様、お父様はなんでこの町を守っているのですか？」

父「それはだな、月・・・・俺はこの町が大好きだ、だからこそ、この街のみんなの笑顔を守ってやりたいんだ・・・・」

董「なんだか、貴方の後ろに亡くなったお父様の面影が見えます・・・ふふ」

神「え？」

董「いえ、なんでもありません、それでは、今夜は宴ですね」

董「あらためまして、性は董、名は卓、真名を月といいます」

神「俺は西条神名！これからよろしくね　月ちゃん（ナデナデ）」

月「へう／／／・・・・・」

神名ｓｉｄｅ

（つい撫でちまったーー！！でもメッチャかわいいーー！！！お持ち帰り～～～～！！）

月「そ・・・それでは、宴まではまだまだ余裕がありますし、ちょっとお買い物に付き合ってくれませんか？？」

神「うん、いいよ　行こう！」

こうして、洛陽での神名の生活は始まったのである・・・・・・

神名、決心する（後書き）

キ「まさかお前・・・・・ロリコンだったのか？？？」

神「んなわけ、あるかぁぁぁぁぁぁ！！！！！」

キーック！！

グチャッ！！！

・・・・・・・・・・・・

神名、平和な日々に危機が迫る（前書き）

シゴトヤメヨウカナ・・・・・

神名、平和な日々に危機が迫る

宴の最中に皆と名前を交換した

最強の呂布、神速の張遼、突撃馬鹿の・・・・だれだっけ？

華雄「華雄だ！！！」

人の心読むなよ・・・・

・・・・・・・・

翌朝

働くとなれば仕事がある、だが今日の俺は非番だ

だから、今日はのんびり過ごすことにした

神「平和だね～～～・・・・・」

呂「・・・・・（コクコク）」

あれ～？いつの間に俺の横に？なんで気配消してくるかな？

とま～、そんなことは置いといて、今は二人でひなたぼっこをしています

すると・・・

呂「・・・・・神名、お腹すいた・・・」

神「あ、もうそろそろ昼か、んじゃ～、なんか食いに行くか？」

呂「・・・・・・（コク）」

俺達は街に向かって行った・・・・

とある店、呂布と俺が食事していると、ふと隣の席で食事している人の話し声が聞こえてきた

客1「なんかよう、この街の外では変な噂が流れているらしいぜ」

客2「へー、どんな？」

客1「なんでも、董卓が悪事をはたらいて民を苦しませているって話だ」

なに？月が悪事を・・・・そんなわけあるはずがない・・・・

そして、一番聞き捨てならない言葉が出た・・・・

客1「それでさ、なんか反董卓連合が組まれるらしいぞ」

客2「え？本当？」

・・・・・・・・

は？反董卓連合？何それ？

え・・・それで、ここに攻めてくるって言うのか？

呂布は食事に夢中でさっきの話が聞こえていない・・・

神「（やっぱり、このことは言った方がいいのか・・・・・）」

丁度、呂布も食事を終え、急いで城に向かった・・・・・

・・・・・・・

神「月！いるか？？」

俺は月の部屋の前で言った

月「え？神名さん？いいですよ、どうぞ・・・」

そして、戸を開け、月の部屋に入り、さっきの話のことを聞いてみた・・・・

神「月、聞きたいことがあるんだが・・・・・反董卓連合ってなんだ？・・・・」

月はその言葉を聞いたとたん、表情を暗くして言った・・・

月「やはり、聞いてしまったんですね・・・」

月からの説明もさっき客の話していたことと一緒であった

月「私達は、もう準備はしております、後は反董卓連合を待ち受けるだけなのです・・・・」

俺はイラついていた、そんな変な噂を流し、この子を・・・この街を潰そうとしているのだから

月は震えていた・・・・そんな月に俺は頭を撫でてやった

神「任せておけ、俺がぜってー守ってやる、安心しろ（ナデナデ）」

月「へぅ／／／・・・・」

月「で・・でも・・・・・」

神「大丈夫、俺達に任せておけ・・・・」

そう言って、俺は親指を立てて、後ろにやった

そこにはこの城にいる全武将がいた・・・・

その顔は皆、決意を固めた様子だった・・・・・・・・・・

・・・・・・・・

さっきの話の後、俺は自分の隊をを作ることにした・・・・

名を・・・・

「神名特攻部隊」・・・・・・

そして、歴史が動き始める・・・・・・・・

神名、平和な日々に危機が迫る（後書き）

ジカイカラ、バトル・・・・・カモ・・・・・

神名、強し・・・・・（前書き）

フツカブリノ・・・・コーシン

神名、強し・・・・

とうとう来てしまった、決戦の当日

俺達は今、作戦会議を終えたところだった

張「よっしゃー、絶対相手の武将負かしたるわい！！」

呂「・・・・・恋、がんばる・・・・」

華「・・・・ふふふ、全部叩きのめしてやる・・・」

皆、自分の持ち場に着こうとしていた・・・・

いかにも、一人だけ馬鹿なことを考えているのは誰でしょう～か？

リン「（張遼！）」

神「（お前はアホか、どう考えたって華雄だろうが！！！）」

そのため、俺はいつ華雄が暴走しても対処できるように、華雄と一緒に先陣をきることになった・・・・・・・・

???（1）side

?2「何を考えているんですか!!あのお方は（あの方＝袁紹）!!」

?3「仕方ないのだ・・・・・」

?1「そうだよう愛紗ちゃん、こっちは袁紹さんたちよりも兵も、お金も劣ってるんだから」

?2「ですが・・・・」

?4「ここは従うしかないでしょう・・・・」

?2「なぜそう思うのだ?朱里・・・」

愛紗ちゃんが理由を聞く

？4「はい、今、袁紹さんたちに歯向かえば、この反董卓連合は反劉備連合になりかねないからです・・・」

？2「うぅ・・・・・」

そう話をしていると・・・・

兵「伝令です」

兵の人が言うには、袁紹さんが作戦を立ててくれたそうだ

？4「早速見てみましょう」

皆がその内容を読む

全「「「「「「雄々しく、勇ましく、華麗に進軍・・・。」」」」」」

全「な・・・何考えとるじゃーーー！！！！！」

その声は他の国の人たちまで聞こえたそうだ・・・・

神名ｓｉｄｅ
神「華雄さん、頼むから暴走だけはしないでくれよ」

華「ふふふ・・・全部叩きのめす・・・全部叩きのめす・・・・・・・・・」

神「（うわ～、人の話聞いてねーよ・・・・・こりゃ～、ちと大変になるかもな～～・・・・）」

と、考えているうちに相手の軍が進軍してきた

こっちの神名軍にはもう作戦は伝えているし、後はあの人が何とかしてくれるだろう

（あの人＝副隊長）

神「よし、そろそろいいかな・・・」

神「すぅ～・・・我らが勇敢なる兵達よ！！この戦いの意味を理解しているか！！していないものは良く聞け！！この戦いは仲間を守るための戦いだ！！一人は皆のために！皆は一人のために戦うのだ！！！決して、仲間を見捨てることはするな！！」

言い終わると同時にシ水関の門が開かれた

神「さぁ！皆のもの！！戦いの始まりだ！！！！！！！」

「「「「「「「「おおおおおぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！！！！！！！」」」」」

兵達が雄叫びを上げる

さぁ～て、俺もはじめるとすっか・・・・・・

と、思った瞬間！！

華「全軍、突撃ーーーー！！！！」

あああああ！！！！忘れてたーー！！突撃馬鹿の華雄わーすーれーてーたーーー！！！！！

急いでXグローブを出し、華雄を追いかけていく

兵達からは

兵1「おい、隊長の手と頭が燃えてるぞ！！」

兵2「なんじゃ？ありゃ～～～！！？」

兵3「やっぱすげーーー・・」

おい、一人だけこの時代とは思えない言葉が聞こえたが・・・・いいか

追いかけて、華雄を止めようとするが、もう華雄は誰かと戦っていた・・・・・・

華雄ｓｉｄｅ

華「我が名華雄！！お前の命頂戴する！！！」

？「我が名は関羽！！貴様ごときが私の命を取るなど１０年早い！！」

関羽が挑発してくる、それに華雄は・・・・

ブチッ・・・・・

華「い・・・言わせておけばいい気になりおって！！！」

華「はぁ！！！！」

華雄の斧が関羽を狙う

だか、関羽はそれを容易く避ける

上、横、下、フェイントで横などさまざまやるがすべて避けられる

華「なぜあたらないんだ！」

関「攻撃が遅すぎる・・・・」

そして、私の手から斧がすべり落ちる

華「しまっｔ「もらったーーー！！！」くっ・・・・・・」

関羽の槍が私を狙う・・・

私は目を閉じ、痛みに備えた・・・・・

だが、痛みがくることはなかった・・・・

そこには、あの男がいた・・・・・・・・

神名ｓｉｄｅ

神「クソ！！！　間に合え！！」

俺は焦っていた、華雄が目の前でやられそうでいるからだ・・・・・

急いだ・・・全力で・・・・だが華雄に槍が迫る・・・

俺は一瞬諦めていた・・・・・・・・・

その時、俺の頭にはある言葉が浮かんだ・・・

それは親父に言われた言葉だった

父「神名、お前はいつもすぐに諦めてしまう、だがお前にだって諦めたくないことだってあるはずだ、
だからな、そのことだけは絶対に諦めるな！それがどんな状況だったとしてもだ！！」

・・・・・俺は、全身の力を放出した

一気に華雄のところまで着いた

そして、相手の槍を掴んだ・・・・・

相手は驚いていた、いきなり目の前に人が現れ、なおかつ手と頭が燃えているのだから・・・・・

俺は華雄を近くの兵に任せ、目の前の相手に集中することにした・・・・

だが、目の前にいたのは最初にこの世界に来た時に出会った3人の少女の一人だった・・・・

関「ん？あ・・・貴方は・・・・・もしや・・あの時の青年ですか？」

神「あ・・・あはははは・・・・・・」

俺は視線を逸らした

すると、俺の目の前には槍の先が・・・・

関「やっと会えました・・・ここで貴方を「だが断る！」・・・・・
まだ言ってないのに・・・・」

なんか、やっぱこうゆうキャラの相手すんのメンドイ・・・・

さっさと終わらせよう・・・・

そう思った瞬間、俺は相手の後ろに回り手刀を繰り出した・・・・・

関「なっ！？」

バタ・・・・・・

相手は気絶し、俺はそいつを捕虜として城に背負って行った・・・・・・・・

神名、強し・・・・（後書き）

ハジメテ、ナガクカイタカモ・・・・・

神名、最強・・・・

俺は一旦城に戻り、捕虜である関羽を兵に任せ再び戦場に立った・・・

神「やっぱ、多いよな～、どうすっかな～・・・・」

神名の頭にライトがついた

ピキーーーーーン!!

神「思いついた!!・・・・・・吹っ飛ばそう!!」

え？吹っ飛ばすのはダメだって？硬い事は気にするなって・・・・・

俺は味方の兵に大声で言った

神「全軍！！後退！！」

兵達は驚いていた、いきなり後退と言われたからだ・・・・

だが、次の瞬間、味方と相手の兵または武将に冷や汗が流れた

その原因は、神名が手から炎を出し、それで浮かんでいるのだから・・・

それならまだしも、その炎は味方相手関係なく向けられているのだから

神「急げ！！早く後退しろ！！！巻き込まれたいのか！？！？」

その言葉で味方の兵が大急ぎで後退を始める

そして・・・

神「オペレーション　イクス・・・・・」

（了解しました、ボス）

（ライトバーナー、レフトバーナー、共に上昇・・・・・）

神名が言った言葉で手につけているグローブが光り始めた・・・・

兵には良く見えないが、経験をつんだ武将には神名が左手から薄く出している炎が見えていたらしくいきなり、左翼にいた一人の水色の髪をして弓を持ってるいる武将が・・・・・

？弓「ぜ・・・・・全軍緊急退避！！！！！！！！」

そう言ったが、遅かった・・・・・

数秒前・・

（レットゾーン突入・・・・）

（ゲージシンメトリィ、発射スタンバイ！）

神名は水色の髪の武将が言った直後に・・・・放った・・・・・・・

神「Ｘ　ＢＵＲＮＥＲ　ＡＩＲ！！！」

左手から高密度に圧縮された死ぬ気の炎が出された・・・・・

？？？ｓｉｄｅ

？「（どうゆうこと！？あれだけいた兵の３分の２が跡形もなく消えてしまった・・・）」

一人の少女？が内心で驚いていた

すると・・・・・

？２「華琳様！兵の半数以上が損害を受けました！どうなさいますか！？」

また一人の少女が天幕の中に入ってきて言った・・・・

そして・・・

華「一旦、全ての兵を後退させなさい！これ以上損害を受けると厄介だわ」

？2「御意！」

少女が出て行く、そして華琳は天幕から出て・・・

華「（あいつが私の兵を一気に消し去ったものか・・・・いいわねぇ、欲しくなってきたわ・・・）」

華琳の心の中で欲望が渦巻いていた・・・・・

神名、最強・・・・（後書き）

感想マッテルゾ～～！

神名、確認する・・・・・

神名がＸ　ＢＵＲＮＥＲを放った後、相手の全ての兵が撤退をし始めた

夜・・・・

今、俺は捕虜である関羽の前にいる

なぜなら、俺は少し気になることがあるからだ

神「少し質問していいか？」

関「・・・・・・・・」

神「だんまりか・・・・ま～いい、単刀直入に聞く、答えなくてもいい、とって食ったりはしないしな」

神「この戦、誰が仕向けた？」

関「！！」

関羽ｓｉｄｅ

私は驚いていた、このお方は何でも見通しているのだろうか？

朱里が言っていたことを、このお方も言ってる

関「やはり、そう思いますか・・・」

神「うん、俺は一つ噂を聞いた、董卓が悪事を働き民を苦しませている・・・と」

神「だが、それはおかしい、俺の見ている限りでは民は苦しんでなどいない、逆に言えば、幸せなほうだと思っておる」

関「はい、私も半年くらい前にここ洛陽に訪れたことがあります」

神「これは、誰かが裏で糸を引いてるな・・・」

神名ｓｉｄｅ

そして、俺は考えて・・・・

神「ひとまず、関羽さんを蜀の軍の方に返します」

関「!?・・・いいのですか?勝手に返したりなどして?」

神「うん、董卓達にはもう言ってあるよ、てか、もともと確かめたかっただけだったから、だから関羽さんのこと縛ってないでしょ?」

関「確かに・・・・」

神「それじゃ～、俺が送っていくよ、でもこっそりね、他の国の人に見られたら厄介だから・・・」

関「はい、行きましょう」

と言って、出てきてただいま蜀軍の天幕前・・・・

関「桃香様、ただいま戻りました」

と、言っている隙にちゃっちゃと帰ろうとしたら・・・・

関「少々お待ちになってくれませんか？？？」

肩をがしっと掴み、放そうとしない・・・・だから・・・・・

神「アディオス！！！！！！！！！！！！！！！」

肩を掴んでいる手を無理やり放し、物凄い速さで城に戻っていった・・・

関羽ｓｉｄｅ

関「あ・・・行ってしまった・・・・」

桃「どうしたの愛紗ちゃん？なんだか寂しそうな顔して～」

関「い・・いえ、なんでもありません・・・・」

すると桃香様はニヤニヤした顔で・・・

桃「もしかして、愛紗ちゃんさっきの男の人・・・・好きになっちゃったの？？？」

関「（カァーーーー・・・・）」

関「そ・・そんなわけないじゃないですか！！」

鈴「愛紗は素直じゃないのだ～～」

関「鈴々～～～・・・・」

鈴「にゃーーー、怖いのだーーー!!」

関「誰のことだーーーー!」

こうして夜は明けていった・・・・・・

神名、確認する・・・・・・（後書き）

シヌカモ・・・・・・

神名、旅する　前編

俺は戦った

だが、やはり圧倒的な兵の数前では無駄だった・・・・

神「月！こっちに来い！」

月「は・・はい！」

なぜ俺が月を読んだかと言うと、もうこの城が落とされる寸前だったからだ

俺はある提案をした

神「月・・蜀の侍女になった方が今の現状ではいい・・・・」

俺は単刀直入に言った・・

月「私は・・・・嫌です」

神「・・・なんでだ？」

月「ここには、思い出がいっぱいあるんです・・・私はここを離れることはできません・・・それに呂布ちゃん、張遼さん、華雄さん、そして詠ちゃん、他の皆のためにも私はここに残って捕まった方がいいのです・・・・」

俺はイラついていた・・・・そして・・・・

パチーン

俺は月の頬を叩いた

神「馬鹿いってんじゃねー！！ここで捕まった方が皆のためだ～？笑わせるな！！お前はただ自分の責任から逃げようとしているだけだ！！お前が捕まって殺されでもしてみろ、仲間の皆が悲しむことになんだよ！！今だって必死になって皆・・・・・・

お前を守るために戦ってんだ！！！！！！！」

月「つっ・・・・・・」

神「だから、皆のためにも必死になって生きなくちゃいけないんだ・・・・」

月「・・・・わかりました・・・・私の命、貴方に託します・・・・・」

すると、俺が持っていたボンゴレ?ボックスが光りだした

神「なんだ!?」

死ぬ気の炎の注入部分が強く光っている

神「こうなりゃーやけだ!!!」

俺は炎を注入した・・・・ボックスが開く

中から出てきたのは、小さなライオンだった

神「ナッツ・・・・」

そう、このライオンはリボーンでの綱吉（ボンゴレ十代目）が使っているボックス

神「!!そうか!」

俺は思い出した・・・ナッツにはいろんな能力があることに

神「ナッツ・・カンビヨフォルマ！モードデェフェンサー！！」

ナ「がぅーーー！！」

そしてナッツは大きなマントになった

神「さぁ！月、おいで」

月「へぅ・・・・・」

月はなぜか顔を赤くしている・・・なんでだ？？

このマントのお陰で一切の被害を受けずに蜀の陣地まで来れた

神「さてと・・・」

俺は早速、蜀の天幕に入った・・・そこには

愛「！！何ヤツ！！」

張「お姉ちゃん、さがるのだ！！」

天幕に緊張がはしった・・・・

神「あ、いやいや、怪しいものでは・・・・「ではそこに直れ！！！」・・・・・はい・・・・」

仕方なく座る

そしてマントを取った・・・・

愛「！！あ・・・あああ・・貴方は！！」

やっと築いたご様子で

神「よっ！」

何気ない挨拶をする・・・・・・はずだった

愛「あああ・・・貴方は・・・ななぜここにいるる・・・んですか？？」

どんだけ緊張してんだよ・・・・・何にだ？？

神「いや・・・少し頼みがあってね・・・・月を・・・董卓を助けてほしい・・・・」

趙「そんなことできるわけなかろ！それを呑めばこっちが危うい立場になるやもしれんからな・・」

だが・・・・

諸「いえ・・・・助けることはできます！」

諸葛亮が言ったのであった・・・・・・

続く・・・・・

神名、旅する　後編（前書き）

萌将伝やってて更新遅れました

すんません・・・・

神名、旅する　後編

戦に終止符が打たれた

董卓軍の負け・・・・

俺はその戦場から離脱した

え?他の仲間はどうしたかって??

では、教えてやろう!

数刻前・・・・

諸「噂で董卓は死んだと流すんです、董卓さんのお顔を見たと言うものはいないと思うます、だからこの作戦がうまくいくんです、もしそれで蜀に来るというのなら侍女として働いてもらいますが・・・・」

諸葛亮は言った

月「はい、そのことは分かってます・・・・これからどうかよろしくお願いします」

と言い、諸葛亮の案を呑んだ

すると

月「神名さん、お願いします・・・・・詠ちゃんを助けて・・・・・」

月は泣きながらも言って来た

俺は女の子には優しいんだ！

神「分かった・・・」

そして俺はまた城に向かった・・・・

詠ｓｉｄｅ

詠「負けちゃった・・・・・でも、月が無事でいてくれるから良かった・・・・
これで・・・・・

ゆっくり逝けるわ・・・・・」

ドコーーーーーーン

玉座の扉がいきよい良く開かれた

そこには人の影があった

日の光でそいつの顔が良く見えない

でも、私でも分かるくらい殺気を放っていた

もう敵将の方々が来たのか・・・・月・・・・ごめんね・・・・役に立たない軍師で・・・・

すると、いきなり何かの袋らしき物に入れられた

詠「ちょ・・・ちょっと！何してんのよ！！」

？「・・・・・・・・」

そいつは何も話さない・・・・

何をされるのかあまり気にならなかった・・・・どうせ死ぬのならどうなってもいいと思っていたからだ

すると、そいつがいきなり何かを言い始めたのだ

？「ごめんくださーーーーい！！季節外れのサンタクロースでーーーす！！」

そして、袋の口は開けられ目の前にいたのは・・・・

神名ｓｉｄｅ

俺は急いで玉座の間に急いでいた

扉の前に着き思いっきり扉を開けた

そこには詠が居た・・・時間があまりなかったから急いで詠を持ってきていた袋に入れた

そして、詠が何か言っているが無視し目的地の蜀の天幕に向かった

途中、ボロボロになった恋と音々音を拾った・・・・生きてるよな？・・・・

天幕に着き

神「ごめんくださーーーーい！！季節外れのサンタクロースでーーす！！」

そういい、天幕に入り、袋の口を開けた

少したってから二人は泣きながらも抱き合っていた

数分後、二人とも落ち着いた様子で聞いてきた

詠「・・・・・他の皆はどこなの？」

俺は恋達の方を見た・・・・

詠「よかった、他には？」

俺は首を横に振った・・・・

詠「え・・・」

神「皆は生きてる、ただ他の国に捕まったんだ・・・・」

詠「そう・・・でも生きていることを知っただけでも良かったわ・・

・・」

そして

神「んじゃ、俺はこれで・・・・」

詠「ちょ！どこ行くのよ！？」

神「俺はあまりにも目立ちすぎたんだ・・・・だからここにいられない・・・」

二人「「そんな・・・・」」

神「それじゃ～、劉備さん二人をお願いします・・・・」

劉「はい！」

そして、俺はこの戦場を離脱した

天幕を出る時に誰かに何か言われた気がしたが・・・・・まいいか・・・

さぁーて、今度はどこ行こうかな・・・・・・・

神名、空腹に負ける・・・

どこ行こうかな～と言ったのは良いが・・・・・・

神「・・・・・・ここどこだーーーーー！！！」

完璧迷子、ここにあり・・・・・・

辺りは荒地・・・・・どうする・・・・・俺！！

神「とりあえず・・・・歩くか・・・・・」

歩き始めたはいいが・・・・・・

ぐぅ～～・・・・・

神「腹減った・・・・・・・」

やば！こうなんだったら食料貰っておけば良かった・・・・

神「少し走って村でも探すか」

数日後・・・・

フラフラ・・・・フラフラ・・・・・

神「着いた・・・やっと・・・つ・・・い・た・・」

バタッ・・・・・・

俺の意識がそこで途切れた

???siｅｄ

?「おかーさーん、なんか門のとこで倒れてる人がいる〜」

??「あら!本当・・・・保護しましょうか」

(凄い傷・・・早く手当てしないと・・・)

神名は誰かに保護された・・・・続く・・・・・

神名、空腹に負ける・・・・（後書き）

短くなってしまった・・・・

神名、新たな力を・・・・・

神「本当に助かりました、ありがとうございます」

今、俺は助けてもらった親子の家にお邪魔している

神「美味しいご飯までいただいちゃって」

親「いいんですよ、困った人がいたら助けるのが普通ですから・・・」

すると、親の子が突然抱きついて来た

親「コラ、いきなり抱きつくんじゃありません！」

親の言ってることは無視して子が言ってきた・・・

子「ねぇーねぇー、お兄ちゃんはどこから来たの～？」

神「俺？・・・・なんて言うんだろう・・・・・・・天から？かな」

親「！！！」

それを聞いた親の方はとても驚いている様子だった

すると

＜きゃーーーー！！！！！！！！！！！！！＞

外から物凄い悲鳴が聞こえた

神「なんだ！？」

外に出てみるとそこは・・・・・・

血の海だった・・・・・・

俺は悔やんだ・・・・なぜ賊に気がつかなかった・・・・

賊の数はそれほど多くはない

俺は駆け出した

そして、俺は毛糸の手袋を着けXグローブにし、賊を潰していく

一人・・・二人・・・三人・・・・・・・・・・・・・

だが、賊が次々と突っ込んでくる

賊「相手は一人だ！やっちまえ！！」

俺は思った・・・・

力がほしい・・・・・・・・・・・・

今以上の・・・・・・・・・・

力が・・・・・・・・・・・・・皆を守れる力が・・・・

欲しい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・

思った瞬間・・・・・・・・

俺はいきなり黒い空間に居た

そこには一本の刀があるだけ・・・・・

神「これって、ブリーチの一護の斬魄刀・・・」

なぜ俺の目の前にこの斬魄刀がある理解できなかった

？「神名よ・・・我の声が聞こえるか？・・・・・・」

神「！！！」

いきなり声をかけられ驚いた・・・・かけられたのではなく脳に直接響いているのである

？「お前は力を欲した・・・・だから我が出てきた・・・・だが、一つ言っておく・・・」

？「力を得るという事は、誰かを傷つけてしまう・・・・それでも良いのか？」

俺はもう覚悟は決まってる！

神「ああ・・・・俺はもう覚悟を決めてる」

？「そうか・・・・なら！我を掴み我が名を叫べ！！！我の名は・・・・」

神「斬月!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

続く・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4479m/

転生者、現る.....

2010年10月10日13時40分発行